

東北地方太平洋沖地震ルポ



隆起しているマンホール。津波が下水道に入り込み、マンホールを押し上げた



この古い家も左に大きく傾いている。玄関に応急危険度判定で「危険」の張り紙が見える



足元が壊れた屋外設置のヒートポンプ給湯機本体が倒れていた



小学校の体育館。地盤沈下によって土間コンクリートと地面の間がパッキリ開いている



傾いた街並み

電柱や塀が大きく傾いている。右側手前の住宅も、よく見ると道路側に傾いている

住宅は、津波以外で傾いたりするなど構造的に被害を受けたものはほとんどない。しかし、地盤によって相当違うという印象がある。市内は国道中心部こそ地盤がいいが、国道4号線付近は地盤が悪く、蓄熱暖房器や電気温水器が倒れたケースがあり、揺れやすい鉄骨造は3階建ての3階部分の構造が破壊されていたりもした。特に地盤が悪い高台では擁壁が崩れたり、隣に50cmズレて地面が下がったところもあったし、室内・室外の設置にかかわらず、電気温水器の足が折れているものも目に付いた。これはメーカもわかっていると思うが、ぜひもっと強化すべきと本間さん。また、仙台市内は震度6強だが「震度の割りに

被害が少なかったのは、固有周期に関係があると思つている。今回の地震はゆつたりとした揺れが長く続いたが、そのため室内は物が落ちてめっちゃになつても構造的な損傷は少なかったのでは。また、今回間違つてなかったと思つたのは、固有周期が長い地震には偏心率が少ない住宅が有効ということ。やはり偏心率がゼロに近い住宅ほど固有周期も短くなり、室内の被害も抑えられている」と、偏心率が被害を抑えるポイントになったことも強調した。なお、仙台市内も盛岡同様、ガソリン不足に悩まされており、駅前スーパーでは店内への入場制限を行うなど、物流はほとんど回復していません。

高い耐震・断熱性の確保は義務 今回の取材を通じて、地震対策・津波対策の難しさを改めて考えさせられた。石巻市で話を聞いた男性は「例えば今回の津波に耐えられる堤防を造つたとしても、さらにそれを上回る想定外の津波がきたらどうするの？」と言つた。確かにそうだ。北海道南西沖地震、阪神淡路大震災、新潟県中越地震など、これまでも甚大な被害をもたらした自然災害は人知を超えたところをやつてきた。ただ、何もしないわけにはいかない。震度6〜7程度の地震に耐え、ライフラインが切れても2〜3日は最低限の室温を維持できる断熱性は最

低限確保すること。そのうえで安全なまじつくり、各市町計画、防災計画を、都市計画と住宅会社を始めとする地場企業、住民などが一緒に進めていく必要がある。被災地の復興が本格化するのにはまだこれから。そしてそれは長く険しい道になる。 * * * <最後に> 物流の回復が遅れて仕事への影響が出ているにもかかわらず取材に応じて下さった盛岡・仙台の住宅業界関係者の方々、陸前高田・石巻で被災されて大変な思いをされているにもかかわらず被災状況について聞かせて下さった被災者の方々に心から厚くお礼を申し上げます。



畳を外に出している住宅が非常に多い。それだけ床上浸水で被害を受けた住宅も多かったのだ



ここにはもう住めない

南側に開口部が多いこの住宅では、外装材の一部がはがれて左側面の外壁もゆがみ、応急危険度判定で「危険」と判断された(石巻市。4・5面の他の写真も同)



塀の上部がきれいに崩れ落ちている



1階南面のシャッター部分が外れて、前方にはじき出されている住宅



比較的新しい住宅は被害があまり見られない。この一角は床上浸水も免れたという

【3月26日(土) 宮城県石巻市・仙台市】 道は川底のへドロが覆う 畳がすべて浮いた 押し流された住宅はないものの、多くは床上浸水している。どの住宅も畳を外に出しているのはそのため。歩いてる途中に出会ったオホービック・紋別市出身という年配の女性は「地震の時は門柱につ

住宅を見ると、陸前高田市とは状況が違うことに気付く。一見して建物に傾いている住宅や、屋根や壁が損傷している住宅、塀が崩れている住宅などが多い。応急危険度判定で「危険」の紙を貼られた住宅も立つ。床上浸水の影響もあるのだから、震度6強と多少揺れが強かったこ

かまっていれば耐えた。夫は2階にいたけど階段が大きく揺れて、とても下りてこなかった。それから床上まで水が来て畳がすべて浮いた。今は畳を敷いていた板の上にビニールシートを張り、その上に毛布を敷いて寝ている。そうやって1日1回おにぎりやパンなどが配られる配給の列に並びに行った。

また、帰りのバスの中で、仙台市内から弟さんの自宅がある東松島市にタクシーで行ってきたという女性が「(両手で30cmほどの高さを示し)一面に墨をまき散らかしたように黒いへドロがこんなにあった。J Rの線路上には長い距離にわたって丸太が積み重なっている。松島町など小さなまちでは橋の崩落などで報道の人たちが入っていないこともあり、つい最近まで被害状況もわからなかった。救援物資も届かなかった。石巻や陸前高田などほかりでなく、あまりニュースに出ない地域にもたくさん犠牲者や被災者がいることをもっと報道してほしい」と真剣な表情で語った。

建物の損傷目立つ

震源に近いことが原因か

また、地盤沈下によって建物と地面の間や歩道と道路の間に裂け目が出てくる場所、津波が下水道に入り込んだためにマンホールが隆起している場所なども目に付く。帰りのバスを待っている間、海に近い門脇町に自宅があるという若い男性に話を聞いた。仙台の会社に車通勤をしていて、ちょうど会社にいた時に地震に遭い、ようやう2週間ぶりに自宅へ戻った。

地盤で被害異なる

偏心率少ない住宅は安全

仙台に戻ると、その足でテレビのリフォーム番組などでも活躍している岡本貴史さんが「今回の地震で被害に遭った被災者の1人だが、大変忙しいにもかかわらず早く迎えてくれた。(仙台市内の戸建住